

小学校 第6学年 音楽科 学習指導案

神奈川県横浜市立桜岡小学校
教諭 千葉 瑞子

題材名 曲にこめられた思いを感じ取り、みんなの歌声で表そう

題材のねらい 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。

本時のねらい 曲想と旋律や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。(第1時)

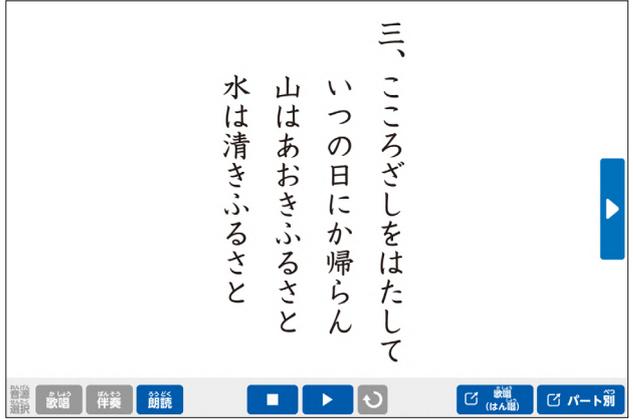
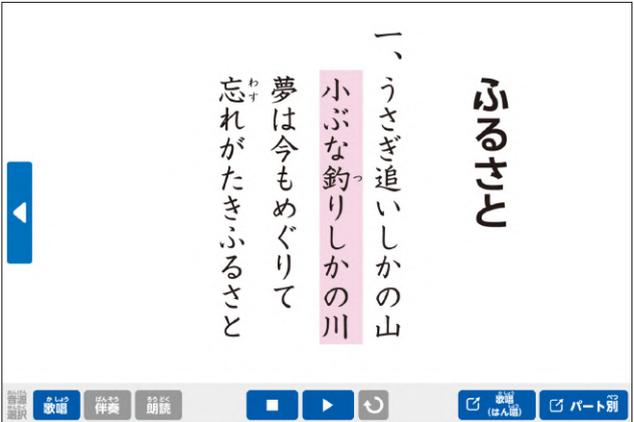
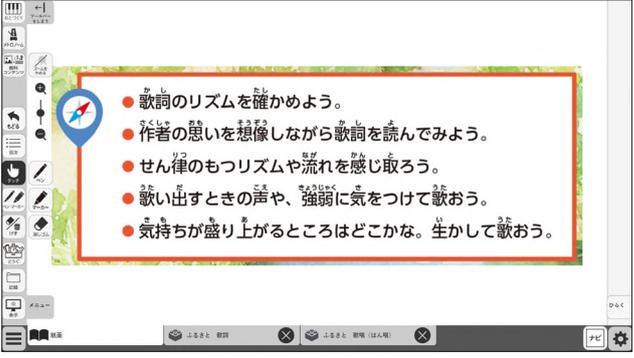
指導時期 1月中旬～下旬

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

本校では卒業式で「ふるさと」を全体合唱して締めくくることが伝統である。子どもたちにとっては耳慣れている曲でも、歌詞の内容や情景をじっくり考えて歌唱表現に生かすことは難しいと感じていた。また主旋律をよく知っているがために、副次的な旋律を歌えるまでに時間がかかり、音程をひたすら正しく歌う練習になりがちだった。「指導者用デジタル教材」は、ボタン一つで「朗読」「二部合唱(歌唱)」「パート別歌唱」「伴奏」と切り替えられる。目の前にいる児童の抱える課題に対して、瞬時に判断して音源を提供することができる。例えば、歌詞のまとまりを生かしてフレーズを工夫したいのなら「朗読」をもう一度聞く、パートごとの音程が取れないのなら「パート別」の歌唱を聴いて歌う。課題がクリアになることで、次の音楽表現を目指し、音楽が豊かになっていく。子どもたちのつまずきに合わせた指導をすばやく提供できるのが、「指導者用デジタル教材」の効果だと考えている。

本時(第1時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<p>歌詞を朗読し、曲の情景を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 歌詞を見て、朗読を聞く。 ● 歌詞の情景を想像し、教師が意味を補いながら1～3番まで朗読する。 ● 歌詞を読んで気付いたことを発表し、情景を想像する。 <p>T：主人公はどんな人なんだろう。</p> <p>T：何歳くらい？どんな気持ち？</p> <p>C：ふるさとの話をしているから、きっとお年寄りなんじゃないかな。</p> <p>C：でも『いつの日にか帰らん』だから、まだ夢を果たせていない。お父さん、お母さんと同じくらいの年齢かもしれない。</p> <p>T：どんな物語？</p> <p>C：2番の歌詞を考えると、遠いところから、主人公の大切な人のことを思っているみたい。</p> <p>C：実家から遠く離れたところに住んでいて、なかなか会える距離じゃないんだよ。</p> <p>T：ふるさととはどんな場所？</p> <p>C：子どもの頃の遊びが今とは違うよね。</p> <p>C：こんな景色、身の回りでは見たことがないね。</p> <p>C：きっと自然豊かな、静かな場所だよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 朗読を聴くと言葉のニュアンスや語句のまとまりがわかりやすい。  <ul style="list-style-type: none"> ● 朗読を聴いた後、全員で朗読し、歌詞の情景を想像する。 ● 歌詞ページにしたまま歌唱を聴くことも考えられる。読譜が苦手な児童は、歌詞を目で追いながら聴いていることが多い。 
展開	<p>「ふるさと」の主旋律を歌う。 「では、曲を聴いてみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 範唱を聴いて、曲想を十分に味わう。 ● 主旋律を歌う。 <p>十分に主旋律を歌えるようになった後、どんな歌唱表現をしたいのか考えさせる発問をする。</p> <p>T：この曲の魅力は、どこでしょう。魅力を感じて、どのように歌いたいですか。(旋律でも、記号でも、歌詞でもよい)</p> <p>C：4段めの歌詞は、必ず「ふるさと」で終わっているし、曲名だから、とても大切な言葉だと思う。はっきりと伝わるように発音して歌いたい。</p> <p>C：3段めだけ旋律のリズムが違うから、盛り上げるように強弱をつけて歌いたい。</p> <p>C：1, 2, 4段めは、大きなクレッシェンドやデクレッシェンドが書いてあるから、その通りに歌いたい。</p> <p>C：終わる感じの旋律とつながる感じの旋律があるね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちの発言や気付きによっては、学習の見直しを持つためにまなびナビを活用することも考えられる。 ● オーケストラ伴奏の範唱を聴き、楽曲全体の曲想を捉える。  <ul style="list-style-type: none"> ● 授業では、子どもからの考えを共有するため、意見を聞いてすぐに資料で確認したり、音にして表現したりする。例えば、 歌詞についての意見 →デジタル教科書の歌詞をモニターに映して共有 →歌詞に気を付けて歌う 旋律のリズムの違い →楽譜を確認した後、リズム打ちをして違いを共有

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<p>「ふるさと」の副次的な旋律を歌う。</p> <p>🎧：この曲はアルトのパートも入っていたね。</p> <p>🎧：では、アルトの旋律を聴いてみましょう。</p> <p>パート別の音源を選択し、副次的な旋律の範唱を聴き、歌う。</p> <p>🎧：新しい旋律が出てきましたね。歌ってみましょう。</p> <p>パート別の音源に合わせて歌ったり、伴奏に合わせて歌ったりして、音程を正しく捉えて歌えるようにする。</p> <p>🎧：違う旋律が重なると、響きが広がって聴こえるね。</p> <p>🎧：二部合唱してみたい。</p>	
まとめ	<p>「ふるさと」を二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本時のまとめとして、歌詞から情景を想像して歌ったり、旋律の特徴を生かして豊かに歌ったりする。 ● 旋律の音程を正しく歌うために、1番は全員で主旋律を、2番は全員で副次的な旋律を、3番は自分の歌いたいパートを選び二部合唱する。 	

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

読譜が苦手な児童は、縦書きの歌詞を見ながら耳で音程を捉えて歌っていることがある。「指導者用デジタル教材」の歌詞ページは、そういった読譜が苦手な児童に非常に有効である。歌詞を表示しながら歌唱を流すことができ、また音源に合わせて歌唱部分を赤色に示すので、耳で捉えている音と視覚が一致しやすい。

デジタルツールが発達し、様々な情報が子どもたちの学びや状況に応じて提供できるようになった。常に気を付けていることは、「音に返る」ことである。デジタルツールは、知りたい情報のみが瞬時に提供されるため、子どもたちは「できるようになった」気になりやすい。範読で聴いた歌詞は、自分も声に出して読み、言葉のまとまりやスピード感、抑揚を味わって朗読することで「六四」のまとまりにも気づきやすくなる。範唱に合わせて歌えるようになった旋律は、友達と二部合唱することで実際の音のゆらぎやハーモニーを体感することができる。

限られた学習時間を有効にするために、「指導者用デジタル教材」は大きな力を発揮すると考えられる。そして、教師は指導の中で「音に返る」ことを意識することで、児童は音を全身で感じながら音楽のよさを味わっていくように育っていくであろう。

